

なきごえ



1976

12

大阪市
天王寺動物園協会

動物と私

金森正臣

(大阪市大・医実験動物室)

小学校4年生になったころ、家の引越し以来4年間ほどいなかった犬を飼うことをようやく両親に納得させた。当時我家は八ヶ岳の北端、蓼科山の山麓にあり、ヤギにヒツジ、ウサギとニワトリ十数羽、カナリヤが50羽ほど、苦勞して赤裸から育てたモズ、リンゴとクルミばかり食べるヤマネなどがいたと思う。

私が欲しかった犬は、新聞を配達にいくといつも道路にゴロ寝している黒い犬であった。その犬は、日本犬の血が濃い雑種で、飼育者が20kmほど離れた家の犬と交換したが、その家に居つかず、もどって来て以前からの家の前に寝ていたのである。私の他にも欲しかった人が居たようであったが、やはりなつかず以前の家に帰って来ていた。このような犬は半年から1年ぐらいで、それまでの飼主以外にはなつかなくなるといわれている。私は周囲の反対を押し切ってこの犬が家に居ついたらという条件で両親を説得した。父も無論、すでに4才半になっているこの犬が私に馴れるとは思っていなかった。

ある日曜日、不安を押えて犬を連れに行った。以前の飼主に綱を付けてもらい名が「ベル」であることを聞いた。引いてもついて来ない20kgもある真黒な犬を1kmほど抱いて帰るのは、ひ弱な小学生には大変であった。数日で散歩に連れ出しても、いちいち抱えなくてもついて来るようになったが食欲はあまりなかった。(この犬は生涯大喰はしなかったし、他の人からもらったものを食べることもなかった。) 学校から帰ると犬が以前の家に帰っていたことも何回かあったが10日目ごろから迎えに行くと尾を振り(この犬は主人以外の人に尾を振ることはなかった)クサリを付けると付いて来るようになった。半月ほどしたある日、学校から帰ると玄関に犬が死んだように横たわり、母が心配そうに見ていた。体のあちこちに深い傷がありまだ出血していた。村一番強いといわれたこの犬が数頭の大型犬を相手に喧嘩をしていたことが後から分かった。犬が自分で食事ができるようになるまでに1週間ほどかかった。

それ以来、この猛犬は完全に我家の一員となり、二度と前の飼主には帰らなかつたし、我家の家族を護衛するようになった。

この犬を相手に小学校の終りごろから、蓼科山週辺や美ヶ原の付近を歩き多くの野生の動物と接する



家ネズミの代表格ドブネズミ。
筆者は目下大阪市内のビルのネズミと奮戦中です。

ことができた。クマにも数回遭遇したがこの犬がいる限り何の不安もなかった。犬の感覚は鋭く主人の危険を放置しておくようなことはなく、いつも私より先にクマを発見し、追いついて楽しんでた。

冬になるとウサギの足跡を追う楽しみがあった。陽の当たる良い場所で待っていて、犬にウサギを追わせると、ウサギは自分の生活圏内の通り慣れている足跡にそって逃げる。犬が15~30分も追跡するとまたもとの場所にもどって来る。ピョコピョコと散歩で立止り、耳をピンとたてて犬の近づいて来るのを確認する。そしてまた少し走って立止る。次は犬が鼻を足跡にすりつけながら近づいて来る。主人が居るのに気がつくと尾を振りながら追跡する。呼びもどさない限りまた最初からやり直して来る。

あるとき、犬がウサギを独力で捕えて家まで運んで来たことがあった。死亡したウサギの後足を伸ばすと1m近くにもなり、体重も3kgほどもあった。どうやってこんな大きなものを運んだのか疑問であったが、頭部を口にくわえて、ウサギの体を自分の背に乗せて運んで来たらしいことが後ほど分かった。

この犬と一緒に歩いて、岩山でノスリの巣を発見し、卵であったのがヒナになり、2ヶ月ほどして巣立つまで観察する機会もあった。

その後、私が学校を卒業したころ、この犬は目が悪くなり、耳も遠くなり、最後には鼻も衰えて死亡した。しかし、この犬が来てからの16年間の思い出は、私の心の中に大きく残っている。似た犬を見ると今でも心の中に生きていることがはっきりわかる。

多分、私が動物に関する仕事に入った大きな原因は、この犬にあったのではないかと考えている。

なきごえ12月号目次

動物と私.....	2
リスザルの親子.....	3
動物園グラフ.....	4・5
動物園この一年.....	6~10
動物園ニュース.....	11

表紙の写真説明

“ムジサイチョウ”

東南アジアに生息するサイチョウの仲間です。愛称はファンファンで、頭をなでてもらうのが大好きという愛嬌のある鳥です。

(撮影：宮下 実)



“リスザルの親子”

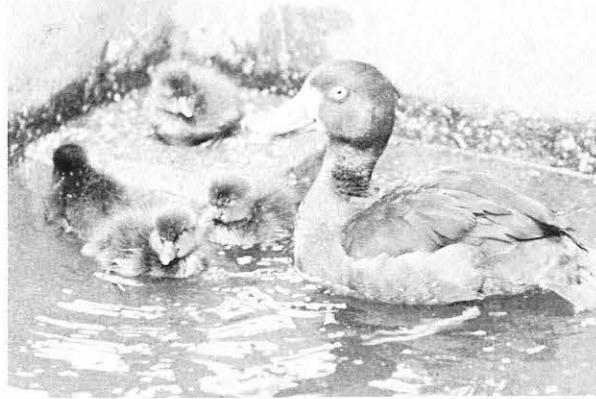
9月8日にリスザルが生まれました。母親の背中にしがみつき、かわいいさかりです。このリスザルはポリビアリスザルという種類で、日本での繁殖は初めてと思われます。(撮影：宮下 実)

動物園グラフ

“繁殖賞をとった動物たち”

繁殖賞というのは日本で初めて繁殖し、しかもその仔が6ヶ月以上育成したものに日本動物園水族館協会より与えられる賞で動物園にとって大変名誉ある賞です。

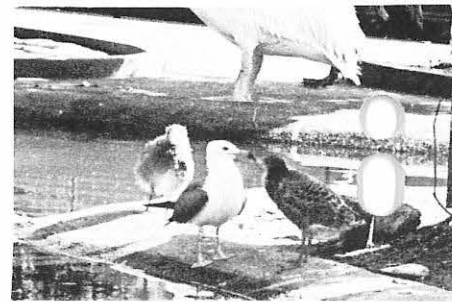
(撮影：樽本 勲、宮下 実、長瀬健二郎)



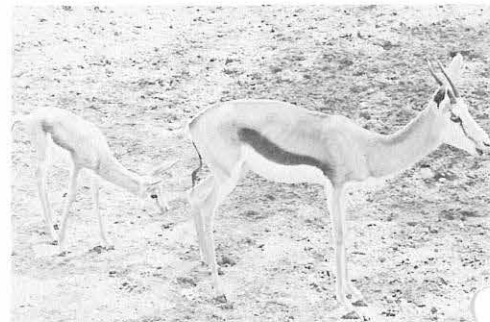
キンクロハジロ
(昭和45年7月14日繁殖)



コサンケイ
(昭和51年4月25日繁殖)
* 繁殖賞申請予定



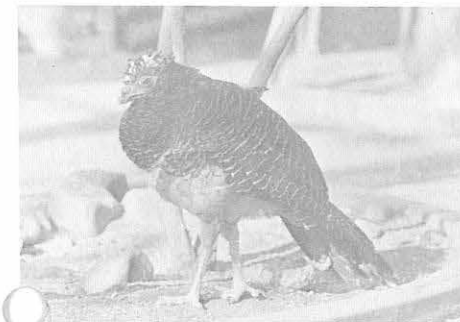
ウミネコ
(昭和47年6月3日繁殖)



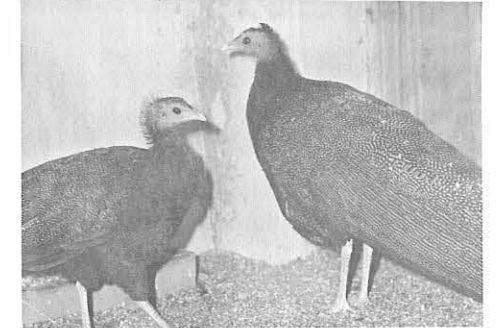
スプリングボック
(昭和42年6月24日繁殖)



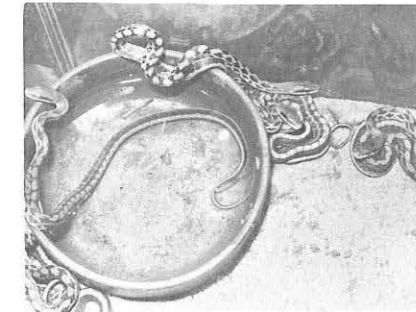
ベイサオリックス
(昭和30年4月8日繁殖)



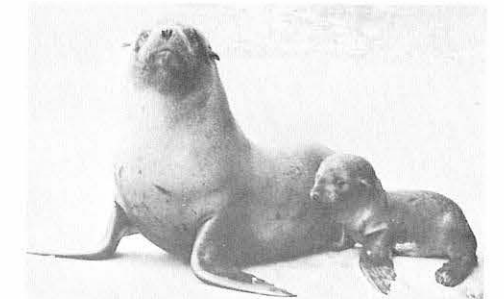
チャバラハウカンチョウ
昭和39年7月1日繁殖



セイラン
(昭和35年6月11日繁殖)



スジオナメラ
(昭和50年8月2日繁殖)



ミナミアメリカオットセイ
(昭和51年5月10日繁殖)
* 繁殖賞申請予定

これ以外にヨーロッパコウノトリ(昭和39年5月10日)
アオサギ(昭和42年3月27日)が受賞しています。

10・11月の動物園日記

- 10/22. ジャクソンカメレオンが死亡しました。
- 23. アオカケイ2羽、エボシドリ2羽が入園し、サンケイ2羽、インドクジャク8羽の寄贈がありました。
- 24. アオカケイがピッコをひいているので治療しています。
- 25. ホロホロチョウが死亡しました。
- 26. 今年生れのキジ類が回虫をわかせていたので駆虫してやりました。

- 27. ビュースの仔が回虫をわかせていたので駆虫してやりました。
- 28. お母さんの袋の中から時々外へ出て遊んでいたアカカンガルーの赤ちゃんが、この日初めて餌を食べました。
- 29. カバの出産が近付いたようでしたのでオスとメスを別居させました。
- 31. 南米産のヘビ、ボア・コンストリクターの寄贈がありました。昨年より3日早くオオミズナギドリの保護第1号がやってきました。

- 11/1. 長毛モルモットが背中に血腫を起しているので治療を始めました。
- 2. ニートリアが肝臓疾患のために死亡しました。
- 3. 10月10日に開幕された秋の動物園まつりがこの日閉幕しました。
- 6. ファンボルトペンギン2羽が入園しました。また、この日クロヒョウとラマの交尾が確認されましたのでクロヒョウは約100日後、ラマは11ヶ月後には可愛い赤ちゃんが見られると思います。
- 9. ヘラサギが右足に趾瘤症を起しているため治療しています。

- 10. クロテナガザルが腸炎のため死亡しました。
- 11. アグーチの仔2頭が誕生しました。
- 15. フラミンゴ40羽の翼の一部を切除しました。
- 16. インドクジャク1羽が死亡しました。
- 18. カバのデブコが5頭目の子供を出産しました。母子ともとても元気です。
- 19. フクロギツネのメスが出血性胃炎をおこして死亡しました。
- 20. キングペンギンが嘔吐をくり返しているため治療しています。

動物園この1年

早いもので1976年も、もう終ろうとしています。今年最後の「なきごえ」ではこの1年を振り返ってみることにしました。

§ 1976年生まれの動物達

今年も多く動物達がうぶ声をあげました。その主なものを御紹介しましょう。

毎年1月には「新年早々のおめでた」という動物



がなにかいたのですが、今年はなく2月23日出産のヤギの仔2頭が今年のおめでた第1号になりました。しかし、3月に入ってヤギ1頭、コヨーテ2頭、メンヨウ4頭と出産のペースはあがりはじめました。コヨーテは昨年10月、アメリカのサンディエゴ動物園からいただいたもので初めてのおめでたです。

毎年、4月は出産ラッシュにわく、動物園なのですが、今年は少しずれてバーバリーシーブの仔が4月7日に1頭生まれただけでした。

5月に入っていよいよ出産シーズン到来となり5月2日のアライグマを筆頭に10日、ミナミアメリカオットセイ。12日、ラマ。18日、トラ。19日、タヌキ。



29日、30日にニホンシカ。31日にニホンザル、という具合で5月だけで15頭の赤ん坊がうぶ声をあげました。特にミナミアメリカオットセイの繁殖は日本初と思われるもので担当者は鼻高々でした。

6月は例年通り出産シーズン



のピークとなりました。この月だけで13頭、60羽のベビー達が誕生しました。主なものをあげてみますと、6月2日、ライオンの仔が2頭生まれ、1頭は死産だったのですがもう1頭は5月18日生れのトラの仔といっしょにして人工哺育し、元気にすくすくと育ちました。



6月5日には2頭のバーバリーシーブが生まれ、カモシカ園では23、24、28、30日と計4頭のハナジカ、それに13日にスプリングボックが生まれました。

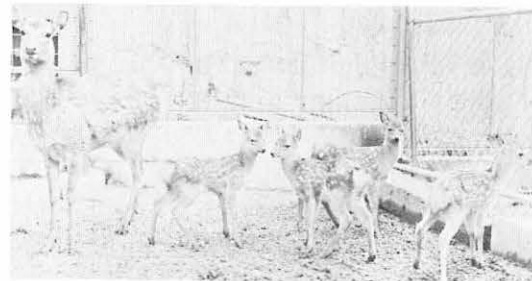
鳥類では、6月中にたくさんのキジ類がフ化しました。コサンケイ、3羽。オナガキジ、1羽。キンケイ、13羽。ギンケイ、1羽。マクジャク、2羽。シマハッカ、8羽。コウライキジ、9羽。フサホロホロチョウ、4羽。ゴールデンキンケイ、8羽。キジ、3羽。シロクジャク、1羽。ホロホロチョウ、6羽。以上です。この内、コサンケイは日本初の繁殖と思われるとても貴重なキジです。その他、カナダガンも2年連続で1羽ですがフ化しました。そして6月30日、2年前、中国の北京市からお嫁に来たタンチョウがヒナをかえしました。とても元気なヒナで、両親の愛情に包まれ、日に日に大きくなっています。当園では27年振りのタンチョウのヒナです。

7月に入ってもまだ出産は続き、カモシカ園では1頭のハナジカと3頭のエゾシカが生まれ、6月生れ

の4頭と合わせて、8頭のチビチャン達が元気にかけまわっていました。7月3日にはヒョウが生まれ、これはメスでしたのでハナと名付けられ人工哺育で大きくなりました。また同日、2羽目のフラミンゴがフ化しました。その翌日の



4日、5年連続でシマウマが生まれました。7月11日、3頭のビューマが生まれ、そして、7月23日、タンチ



ョウに次いでオオブルのヒナがフ化しました。これは去年に続き2年連続です。



8月に入り、さすがの出産ラッシュも一休みです。この月は8月30日にベイサオリックスが1頭生れただけでした。このベイサオリックスは当園では7頭目なのですが、一昨年、昨年とオスの仔が続いたあとのメスの仔でしたので係



員の喜びもひとしおです。

9月に入り、8月の末からお母さんの袋の中から

顔をのぞかせていたアカカンガルーの赤ちゃんが外で遊ぶようになりました。

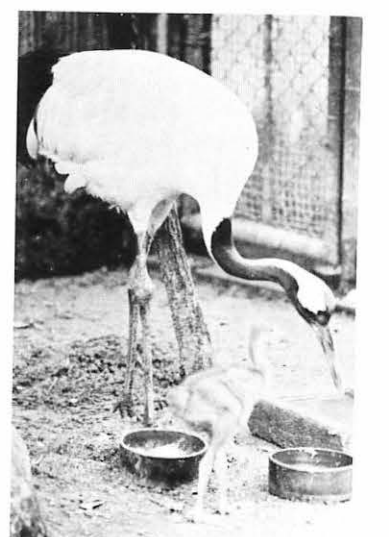
9月8日にはリスザルの赤ちゃんが生まれました。このリスザルは正確にはボリアリスザルというのですが、ボリアリスザルの繁殖も日本では初めてのものとされます。



9月19日にはライオンが4頭の仔を産みました。

10月に入り9日にはサケビドリのヒナがフ化しました。このヒナは正確にはカムリサケビドリとクロクビサケビドリの雑種ですが、これも非常に珍しいものです。

11月には、11日にアグーチが2頭生まれ、18日にはカバが生





まれました。カバの仔はオスカメスカまだわかりませんが、母親は5産目というベテランママで赤ん坊も順調に大きくなっています。

§ 1976年に入園した動物達

今年もたくさんの珍しい動物達が入園しましたが



その内のいくつかを御紹介しましょう。

哺乳類ではカピバラが2頭入りました。これはげっ歯目といってネズミの仲間ですが、成長すると体重が50kg位になるげっ歯目中最大の動物です。

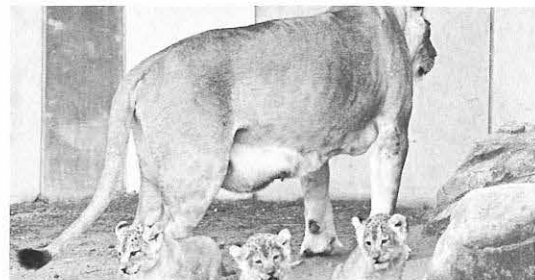
他にアカカンガルーが1番入園しました。アカカンガルーも他の野生動物と同じく、原産地のオーストラリアでは激減はじめ、なかなか外国の動物園では手に入りにくくなってきました。この少なくなったアカカンガルーを増やすため、動物園ではとても力を入れています。

またジャッカルルのメスも入園しました。これ



はいままでいたベアのうちのメスが昨年死亡したため、来年にはまたかわいい赤ん坊の顔が見られることでしょう。

9月16日にはニュージーランドのオークランド動物園からオセロットのオスがやってきました。一昨年寄贈でいただいたメスの「パトラ」に良い花むくさんはいないかとあちこちさがした結果です。これは「シーザー」と名付けられましたが、パトラとの



同居の具合は上々で、来春にはベビーを、と、係員一同とても楽しみにしています。

鳥類ではこの1年で13種、45羽が入園しました。ミカドキジ2羽、コサンケイ2羽、オナガキジ2羽、カルガモ20羽、カンムリヅル2羽、ニジキジ1羽、ハッカク1羽、キングペンギン3羽、ケープペンギン4羽、クロエリハクチョウ2羽、アオカケイ2羽、

エボシドリ2羽、ファンボルトペンギン2羽。これらの鳥類はこれから訪ずれる冬が日本での初めての冬ですから、この季節の健康管理には十分な注意が必要です。

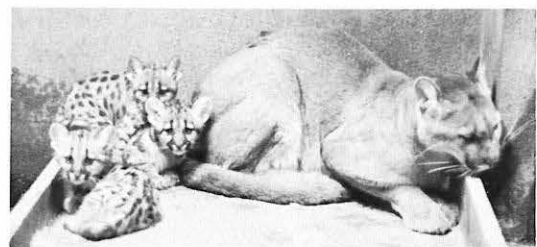
§ 外国の動物園との交流

昨年は開園60周年ということで外国の動物園から動物をいただいたり、交換したりということがたくさんあったのですが、今年もビルマのラングーン動物園と動物交換が行なわれました。7月20日、当園からタヌキ、キジを各一番に、そしてアグーチ



を4頭送り、7月23日、ラングーン動物園からブラックタートル2頭、ムツアシガメ2頭、ムチヘビ10頭をいただきました。どれも日本ではとても珍しいハ虫類で、来園のお客様の目を楽しませています。

また、現在、バングラデシュのダッカ動物園との動物交換の話が進んでいますので近いうちに珍しい動物をいただけることと思います。



動物園の交流は以上ですが今年は何の交流が以前以上に活発な年でした。

まず、3月14日、中国の西安動物園関係者、一行5名がいらっしゃいました。4月4日にはオーストラリアからサウスウェールズ州動物園会議副議長のモートン夫妻が来られました。そして4月17日にはアメリカのロスアンジェルス動物園で広報を担当しておられるデニス・マキノさんが来られ、4月25日にスリランカのスリランカ動物園のアルヴィス副園長が来られました。8月29日にはアメリカのサンディエゴ動物園からチャーノフ夫妻がお見えになり、10月21日、韓国の昌慶苑動物園の呉園長がいらっしゃいました。みなさん「ワンドフル、ワンドフル」を連発なさり、園長以下恐縮した次第です。

また、当園からも3月、キーウィ担当の磯田係員がオーストラリアとニュージーランドへ、4月、深井獣医がアメリカへ、6月、長瀬獣医がアメリカへ出掛け、たくさんの動物園を訪ねてきました。みなそれぞれ、



たくさんの有意義な点を学んできたようでした。

§ 1976年に寄贈をうけた物動

今年も様々な動物を市民の方々からいただきました。その寄贈動物、保護動物は1月から11月末までで189件、72種、250点にも達しています。その内、主なものをあげてみますと、

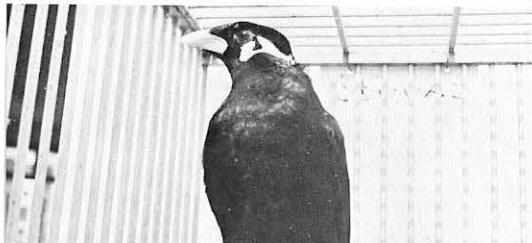
哺乳類ではサル類が例年通り多く、テナガザル2種、2頭、タイワンザル、ブタオザル各1頭、それにカニクイザルは8頭もいただきました。他にタヌキ2頭、フェレット、ジャコウネコ、キタキツネなどを各1頭いただきました。



鳥類ではキュウカンチョウ4羽、ヘキチョウ2羽、ホロホロチョウ2羽、また、ハッカク、コウライキジ、インドクジャク、キンバラ、コバタンなどを各1羽いただきました。

ハ虫類ではギリシアガメ4頭、アカミミガメ2頭、クサガメ、スッポン、ギア、カメレオンなどの寄贈がありました。

保護動物ではいつも筆頭を占めるオオミズナグドリが今年は少なく、6羽が保護されただけで、トビが8羽、キジバト6羽、と例年になく多く保護

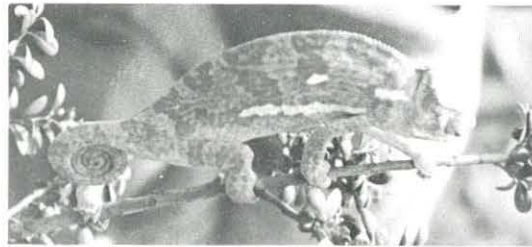




まれました
せんが、母
も順調に大
§ 1976年
今年もた



その内の
哺乳類で
っ歯目とい
重が50kg位
他にアカ
カンガルー
ストラリフ
激減はし
なかなか外
動物園では
入りにく
てきました
の少なく
アカカン
を増やす
動物園では
も力を入
ります。
またジャ
ールのメス
しました。



されてきました。その他、ユリカモメ、タゲリ、トラフズク、ムササビ、コサギ、アオバズク、アオゲラ、コガモなど枚挙にいとまがないほど多くの保護動物がありました。これらの中でも、南港の貯木場から保護されてきたカルガモの卵12ヶは印象的でした。府自然保護課の方が卵を冷やさないよう慎重にそして素早く持って来てくれたおかげで、12ヶの内9ヶがうまくフ化し、現在、南園の日本庭園で元気に暮しています。

§ 1976年に死亡した動物

今年も残念ながらいくつかの貴重な動物が亡くなっています。



1月19日、キソウマが23才の老令にかたず、寒さのため死亡しました。

3月1日、エランドのオスが腎不全と腸炎で2頭のメスを残して死亡してしまいました。

3月8日、アカカンガルーのオスが右足首の化膿が悪化し、敗血症をおこして死亡しました。

4月22日、シシオザルのオスが肺に寄生する大変珍しい肺ダニ症で死亡しました。

6月1日、昨年アメリカのリンカーンパーク動物園からいただいたカナダヤマアラシのメスが肝炎を起し治療もむなしく死亡しました。

9月18日、ヘビの中で最も長いものの一つであるアナコンダが寄生虫症で死亡しました。

§ 1976年の主なできごと

- ◎ 1月1日～1月15日：エトにちなむ世界の辰のオモチャ展開く。(180点の辰のオモチャ

展示) また、昨年募集した写真コンクールの優秀作品30点を同時に展示。

- ◎ 3月15日：猛獣脱出想定捕獲訓練実施。
- ◎ 3月16日～4月10日：WWF(世界野生生物保護基金)のPR展開催。
- ◎ 4月1日：入園料を200円に値上げ。中学生以下は現行どおりで無料です。
- ◎ 4月25日～5月9日：春の動物園まつり開幕。オランウータンの演技、キリンの赤ちゃんのペットネーム募集、動物無料相談所、動物の目方を測る会など。



- ◎ 4月27日：「なきごえ」の姉妹版、「どうぶつえんだより」創刊。
- ◎ 5月5日：動物の目方を測る会開催。メンヨウの赤ちゃん、カピバラ、ボア、チンパンジー、キングペンギンなどの体重を測りました。
- ◎ 6月1日：恒例のメンヨウの毛刈りを行いました。
- ◎ 7月2日：キーウィ、来園満6周年を迎える。
- ◎ 8月1日～8月7日：第2回サマースクール開講。(小学生高学年103名参加)
- ◎ 9月21日：エミューの長寿表彰を行なう。エミューは来園以来40年になりました。
- ◎ 9月23日：家畜動物総合感謝祭を行う。
- ◎ 10月1日：ボイラーの火入れ式を行う。
- ◎ 10月10日～11月3日：秋の動物園まつり開催。カナリア、セキセイインコの品評会、動物無料相談所、人形劇など。また、期間中の日曜、祝日には



クリーン作戦と銘打ち、美しい動物園づくりの協力をよびかけました。

(編集部 長瀬 健二郎)

☆カバの赤ちゃん誕生

11月18日、カバが1頭生まれました。母親のデブコはこれが5度目のお産だけに、じょうずに仔を育てています。寝室と



☆動物舎改造のお知らせ

小鳥舎、類人猿舎、猛獣放飼場で改造工事が始まりますのでお知らせします。小鳥舎は外側の金網張りかえで年内に完工の予定ですが、類人猿舎、猛獣放飼場では12月から来年3月まで工事がかかる予定です。その間、ゴリラ、放飼場のライオン、ト

夢が広がるショッピング……
近鉄がお届けします

上本町近鉄 TEL.(06)779-1231
アベノ近鉄 TEL.(06)624-1111
奈良近鉄 TEL.(0742)33-1111

東京近鉄

近鉄

心配されましたが、手術を受けた40羽のフラミンゴの経過は順調です。

☆ダッカ動物園との動物交換

バングラディッシュのダッカ動物園と、かねてから動物交換の計画がありましたが、このほどやっと本決まりになりました。当園からタヌキ、アナグマ各1番を送り、折り返しダッカ動物園からジャングルキョット1番いが送られて来る予定です。

休園日のお知らせ

毎月第3月曜日は休園日です。来年3月までの休園日は下記の通りです。
12月20日、1月17日、2月21日、3月22日年末、年始は12月29日～1月1日まで休園いたします。
開園時間は9時半から4時半までで、4時に切符売止めになります。

☆動物舎改造のお知らせ

小鳥舎、類人猿舎、猛獣放飼場で改造工事が始まりますのでお知らせします。小鳥舎は外側の金網張りかえて年内に完工の予定ですが、類人猿舎、猛獣放飼場では12月から来年3月まで工事がかかる予定ですので、その間、ゴリラ、放飼場のライオン、トラは展示できませんので御了承下さい。

☆エトのおもちゃ展

例年エトにちなむおもちゃ展を開催していますが、来年のエトの己年にちなむおもちゃ展を、1月2日～1月15日まで、北園展示館で開きます。

☆サケビドリの子ナ、順調に成育

10月9日、日本で初めて繁殖に成功したサケビドリの子ナは、その後順調に成育しています。ふ化当時96gだった体重も、44日目で325gに達し元気一杯です。



☆人工哺育の

トラの赤ちゃん 9月25日に生まれたトラの赤ちゃんは、その後母親がめんどうをみようとしないため、11月7日から人工哺育で育てています。離乳期のため、なかなか餌になじまず心配しましたが、やっと餌にもなれ、順調に育っています。



休園日のお知らせ

毎月第3月曜日は休園日です。来年3月までの休園日は下記の通りです。
12月20日、1月17日、2月21日、3月22日年末、年始は12月29日～1月1日まで休園いたします。
開園時間は9時半から4時半までで、4時に切符売止めになります。

☆カバの赤ちゃん誕生

11月18日、カバが1頭生まれました。母親のデブコはこれが5度目のお産だけに、じょうずに仔を育てています。寝室と室内のプールもさっそく暖房を入れ、健康に気をつけています。



☆オオミズナギドリの保護相づく

今年も例年通り、オオミズナギドリが保護されて当園で収容されています。これは毎年、日本の近

海で繁殖したオオミズナギドリが、越冬のため中国南部やオーストラリア付近へ渡るのですが、その途中、衰弱したりして保護されるわけです。今年には11月20日現在でまだ5羽と少く、今後まだまだ保護されてくるでしょう。



☆フラミンゴの断翼

毎年台風シーズン前にはフラミンゴの風切羽を切羽しますが、毎回捕える際フラミンゴが傷つきやすいため、思いきって翼の一部を切断して飛べないようにする手術を11月15日行いました。多少出血があっただけでしたが、手術を受けた40羽のフラミンゴの経過は順調です。



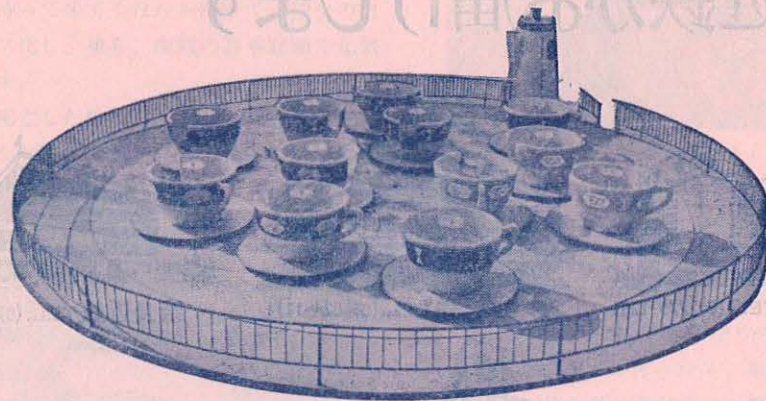
☆ダッカ動物園との動物交換

バングラディッシュのダッカ動物園と、かねてから動物交換の計画がありましたが、このほどやっと本決まりになりました。当園からタヌキ、アナグマ各1番を送り、折り返しダッカ動物園からジャングルキツネ1番が送られて来る予定です。

展示) また、昨年募集した写真コンクールの優秀作品30点を同時に展示。

- ◎ 3月15日：猛獣脱出想定捕獲訓練実施。
- ◎ 3月16日～4月10日：WWF（世界野生生物保護基金）のPR展開催。
- ◎ 4月1日：入園料を200円に値上げ。中学生

遊園施設委託経営・製作・販売



久竹 娯楽株式会社

本社工場 大阪市西区南堀江通3-40
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

6月1日、昨年アメリカのリンカーンパーク動物園からいただいたカナダヤマアラシのメスが肝炎を起し治療もむなしく死亡しました。

9月18日、ヘビの中で最も長いものの一つであるアナコンダが寄生虫症で死亡しました。

§ 1976年の主なできごと

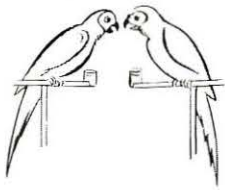
- ◎ 1月1日～1月15日：エトにちなむ世界の辰のおもちゃ展開く。(180点の辰のおもちゃ



クリーン作戦と銘打ち、美しい動物園づくりの協力をよびかけました。

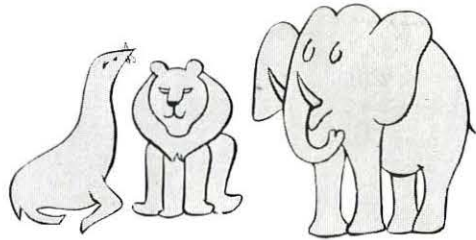
(編集部 長瀬 健二郎)

なきごえ 昭和51年12月15日発行 (毎月1回15日発行) 第12巻第12号(通巻136号)
 編集/大阪市天王寺動物園 干543 大阪市天王寺区玉水町2
 発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳 電話 大阪 (06)771-0201
 印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517
 飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイナップル・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員 < 小谷 潔・林 邦彦・大野 尊信・米田 敏光・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三 >
 深井 和美・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・農本 武志